

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム 絆

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370101362		
法人名	有限会社絆		
事業所名	グループホーム 絆		
所在地	〒020-0861 盛岡市仙北3-14-41		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	令和6年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者がグループホームらしいゆったりとした生活を送れるように、その人らしい生活を考え、自立支援を実践し個別ケアに努めている。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道4号線盛岡バイパス川久保交差点から明治橋方面に向かって仙北町通りを200m程行ったバイパス寄りの住宅街の中に、民家をリニューアールして開設して以来、20年が経過するグループホームである。職員の欠員が埋まらず利用者も5人と定員に満たない状態が続いてきたが、市内中心部にあった系列のグループホームが11月で休止になり、一部職員が転入するとともに、10月以降2人の利用者を受け入れ、賑やかで活気のある生活が戻ってきた。一般住宅の良さを残し、和風の庭もある家庭的な雰囲気の中で、利用者は、職員の見守りと支援を受けながら、調理の手伝いを始め、好きなこと、やりたいことに取り組み、自立度の高い生活を送っている。今年、コロナのクラスターの発生により外出制限が続く、運営推進会議も開催できず、地域との交流も途絶えてきたが、来年度に向け、豊富な介護知識と経験を持つ管理者のリードのもと、職員は地域密着型ホームの再構築に向けて熱心に取り組みを進めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年12月7日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示・共有は進めているが、在職歴の浅い職員が多く理解度はまだまだ低い。 会議や研修を通して共有や理解度を高めたい。	職員の欠員があり、利用者も定員に満たない状況から、系列のグループホームの休止により、10月以降、利用者と職員が当ホームに移り、生活全体に活気が出てきている。在職経験の浅い職員が多いことから、地域密着型ホームの目的やホームの運営理念、本人本位の自立した生活に向けた支援のあり方等について、改めて理解と共有を図るよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍で稀薄になっている。回覧板のやり取りや買い出しなどでの関わりはある。	開設20年のホームで、地域との繋がりもあったが、地域住民の高齢化や世代交代で関係がやや希薄になりつつあるところにコロナ禍が重なり、交流が途絶えたまま近隣との挨拶程度になっている。自治会の活動が復活の兆しがあり、まずは利用者が下校する子どもたちに「おかえり」の声かけをるところから始めるなど、地域との交流に改めて取り組みたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会などを通じ地域参加や貢献を検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスによるクラスターや人員欠如などにより開催できていない面がある。開催に向けて要検討中。	二度のコロナクラスター発生で全く開催できない状況が続いたが、11月にやっと書面で開催した。自治会長、民生委員、お世話になっているマッサージ師、地域包括支援センター、家族全員に運営状況の報告書を送っているが、委員会のメンバー構成が明確に定まっていない。固定されておらず、職員体制も整ったことから再構築に向けて検討中である。	2ヵ月毎に定例の会議を開催すること、利用者の生活の様子等、運営状況の報告に加え、地域との相互交流、災害時の地域協力、ホームのリスク管理等をテーマに設定して意見交換や提案を聴取することなど、運営を軌道に乗せることが求められます。特に地域力をお借りできるよう、消防団、交番、老人クラブ、保育園等の皆さんにも委員に加わってもらうなど、メンバーの拡充が望まれるところです。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状報告や相談を行い協力関係を構築している。	市の介護保険課とは、日常的には、電話、メールでのやり取りになっているが、制度に関する不明点等は担当者と対面で話し合える関係にある。ハローワークや他施設等を紹介してもらうなど、職員不足解消の相談にも乗ってもらっている。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 絆

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケア方法を意識している。身体拘束の対象者はいないが、今後は身体拘束廃止委員会を定期的に開催し内部研修も併せて実施していく。	運営推進会議の場を借りて「身体拘束廃止委員会」を開催していたが、運営推進会議を開催できないことから、10月からは、委員会を立ち上げ、職員会議の後、職員全員参加で開催している。経験の少ない職員が多いことから、スピーチロックや行動制限等、日常の支援で気になる行動がある場合は、管理者が個別に注意している。身体拘束に繋がることのないケアの研修に力を入れたいとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の意識を持ちケアに当たっている。内外の研修参加や開催を検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護推進員養成研修への申し込みや権利擁護への理解を深める為、研修開催や参加の機会を探してゆく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	適切な説明に努め、不安や疑問に答えながら理解を図り同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望箱を設置、また電話など連絡の中で要望等を伺い運営に反映している。	利用者からは、家に帰ることや食べたいものへの要望が多く、運営に対する意見等はない。家族から意見、要望等を出してもらうためには、利用者の生活の様子を知ってもらうことが重要なことから、中止していた毎月のお便りを居室担当者(1ヵ月毎に担当を交代)が一人一人の家族に送付することを復活した。職員と話す機会や家族と集まって話し合う機会が欲しいとの要望があり、今後、対応を検討することとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個別面談や会議、日常のミーティングの中で意見や提案を受け運営に反映させている。	毎月の定例職員会議の場で各職員から支援や業務改善に関する意見や提案を出してもらっている。特に休止した系列の事業所から一部の職員が合流したことから、管理者は元からの職員は3か月毎、新しい職員とは1週間毎に業務の進め方等について意見交換を行い、ホームの融合に努めている。職員の育成にも力を入れており、職員を介護職員実務者研修や初任者研修に派遣している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の状況を把握しながら職場環境や労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を把握し必要な内外への研修参加を奨励し、その為の勤務時間を調整している。職員の成長を促すためOJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加などを通し、サービスの質向上の為の交流を促している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報収集を行い本人のニーズを把握し安心してもらえるように信頼関係を気付けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に情報収集を行い本人のニーズを把握し安心してもらえるように信頼関係を気付けるように努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 絆

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族とのお話の中で、今現在必要な支援を確認し、提案させていただくこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を行う主体者としての利用者とそれを支える職員として関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態変化や家族の思いを共有し共に支えていく事を意識している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との関わりは出来ているが、その他の関係への支援が出来ていない。	昔からの友人や知人も高齢になり、家族以外の面会はなくなっている。ホームでの生活を通じて、定期訪問の医師、看護師、理髪師の他、ケーキ屋さん等買物に行くお店などと新たな馴染みの関係が生まれている。車がないため、自宅や思い出の場所等へのドライブは行っていない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの個性や生活のペースを把握しながら共同生活を意識し席順など配慮し、コミュニケーションを図れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の情報を家族に確認したり転居先から相談を受けたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話など適時、本人の意向を確認し支援に努めている。	自ら思いや意向を伝えることができる3人の利用者については、普段の会話の中で希望ややりたいことを確認している。意思表示の難しい人には選択してもらえるような問いかけを行い、自分で決めてもらうようにしている。本人の意向を確認しながら、庭木の剪定、習字、洋裁等、キャリアと趣味を活かした暮らし方を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報収集の中から、生活歴や生活環境などを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各種記録を行い本人の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族とのお話の中でニーズを確認し、また多職種連携を意識し介護計画の作成・モニタリングに活かしている。	利用開始時は、計画作成担当者が事前資料等で当初のケアプランを作成し、職員会議を利用して毎月のモニタリングを行い、職員で利用者の状況を話し合い、確認しながら、短期3か月、長期6か月の目標の評価と見直しに繋いでいる。主治医、訪問看護師の意見や家族の要望も取り入れ、利用者の状況に合ったプランになるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や申し送り、ミーティングや会議を通し情報共有を行い実践や計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まだまだな面があるが、人員体制の確保に努め柔軟なサービスが提供できるように取り組んでいきたい。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 絆

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のお店の利用など地域資源を活かしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が安心して適切な医療を受けられるように努めていきたい。	7名中、6名が訪問医(4名は協力医、2名は訪問医師)の診察を月1回受けている。1名は家族付き添いで通院している。眼科、皮膚科を定期受診している人もいる。歯科は2名が訪問歯科で治療中である。週1回来所する訪問看護ステーション看護師から利用者の体調確認や健康管理に助言や指導を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問時などに情報交換や報連相を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時などに情報共有をし関係を築くように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から、重度化の際の本人、家族の意向を確認し定期的に再確認も行っている。	重度化、終末期に関する指針により、利用開始時と定期的に家族と話し合っている、医療的ケアが必要になった場合以外は、希望があれば可能な限り看取りを行う方針であるが、令和4年3月に看取りを実施した際は、現在の協力医ではない為、今後の看取りについて改めて現在の協力医へ相談することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応についてはマニュアルの整備、個別での対応を周知し連絡体制を整備している。応急処置等については研修の機会を設けていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練などを通し方法の情報共有を行っている。地域との協力体制も併せて進めていきたい。	市のハザードマップでは、浸水地域になっており春秋の定期避難訓練では火災と水害を想定した訓練を実施している。夜間想定 of 訓練を検討中である。オール電化で補助的に使うファンヒーター以外は火力は使うことはないが、スプリンクラーを設置している。近隣が密集しており、有事には近隣の協力が是非とも必要だが、近隣の皆さんも高齢化しており、難しい面もある。洪水には垂直避難を基本としている。2階に居室が4部屋あり、非常時の避難について継続的に訓練を行うこととしている。	電気の配線が複雑で古くなっていると消防署の指摘を受けており、点検、修理が望まれる。また、階段が上がった2階の踊り場が狭く、2つの居室はドアを開けるとすぐ直線的な階段の傾斜があり、身体拘束への対応もさることながら、安全対策を講じる必要があるのではないかと感じた。検討を望みたい。定期の避難訓練に加え、月1回は運動がてらミニ避難訓練を実施することも期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護を意識しながら、個々に合わせた声掛けを行っている。職員間の情報共有や研修機会を設ける事で適切な配慮が出来るように努めている。	管理者は、職員に対して、利用者の尊厳とプライバシーを守ることにについて、職員個々が日常の支援の振り返りを通じて、自ら気づくことを求めている。また、居室に入る際のノック、一人の生活者としての敬意、相手のペースに合わせた支援など、基本的な対応については、新採用研修等で説明している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類の選択や過ごし方など選択の機会を作る事を意識したケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調なども考慮しながら、それぞれのペースにあった過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の生活習慣を尊重し化粧や着たい衣服が着れるように支援している。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 絆

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人のできる事を把握し調理や盛り付け、配膳、片付けなど利用者、職員が共同で行っている。	献立は、職員が利用者の希望も聞きながら1週間分を交代で作成し、食材は、3日分ずつ業者に発注して届けてもらう。調理はローテーションに合わせ職員が調理するが、下準備をはじめ包丁を持つ利用者もいるなど、全員が何らかの形で調理に携っている。2卓に3、4人で座り、職員も加わって食事を摂っている。行事の際は、みんなでちらし寿司を作ったり、外注したりして楽しい食事になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を記録、把握し状況に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に合わせた支援を行っている。歯科との情報共有を行い適切な支援が出来るよう努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況、パターンを記録し可能な限り、自立した排泄が出来るよう努めている。	声がけ誘導の必要な3人(2人は全介助)以外の4人(布パン3人、リハビリパンツ1人)は自分でトイレに向かい自立している。夜間は転倒防止のため、離床センサーを使用している人が1階、2階にそれぞれ2人いる。ポータブルトイレ利用者も2人いる。リハビリパンツにパットの人を布パンとパットに替えるなど、現状維持に止まらず、少しでも改善するよう工夫しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や訪問看護とも情報共有を行い本人の排泄状況やパターンを把握しながら排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の要望通りは難しい面もあるが、出来るだけ満足度を上げられるように支援している。入浴を楽しめるように今後も努めていきたい。	週3回、午前中の中入浴を基本としている。背中や洗髪の手伝い等一部介助の人が多く、車いすの人は全介助だが、職員一人で介助できる。一日の入浴が2人から3人で、本人のペースでゆとりを持って入浴でき、職員とのコミュニケーションを深める時間にもなっている。季節によって菖蒲湯、柚子湯を用意し、音楽を流すなど、楽しい入浴になるよう工夫している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 絆

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースや体調に配慮しながら、自分らしく過ごせるように支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	マニュアルの作成や薬の一覧などを作成し理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの役割や活動の機会を提供し、レクなども通し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩などは行っているが、自由に外出出来るような支援は行えていない。家族や地域との協力体制を整備していきたい。	コロナ禍で外出を制限し、ホーム近くの小川に沿った歩道を少人数で散歩するくらいで、外出は控えている。新年度からは、介護タクシーを利用して四季のドライブなどを企画するとともに、家族とも相談して外出の機会を多く設けるようにしたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所での日用品の買い物などの際に会計をしていただく事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればどのような支援が出来るか家族も含めて検討していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるように配慮している。飾りつけなどで季節感を感じられるように努めている。	約10畳の食堂兼居間と約8畳の畳間があり、畳間には二つのソファ、テレビ、かなりの蔵書のある本棚があり、テレビを見たり本を読んだり、ゆったりと過ごせる空間が設けられている。民家時代の和風の庭が四季の変化を感じさせてくれる。利用者と職員で季節毎にバージョンを変えて飾りつけをして楽しんでいる。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 絆

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、居室、居間と自由に行き来出来るように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意向や家族の協力を得ながら、居心地よく過ごせる環境を目指している。	ベッド、洋服ダンス、居室によっては押し入れ、テレビ台が備え付けになっている。貸与のテレビもあり、活用している人もいる。使い慣れた小物を持ち込んで自分好みの部屋づくりをしている。使わない衣類はホームの倉庫で保管している。季節毎に家族が衣類の入れ替えに来ている利用者もいる。殆どの利用者は、職員と一緒にモップがけなどの掃除を行い、清潔な居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差などもある為、安全な動線確保や適切な声掛けを行い過ごしていただくように努めている。		